

企業・NPO等と連携して子どもたちの教育活動をより豊かなものにするための
「地域教育推進ネットワーク東京都協議会 総会」が開催されました

5月29日、平成18年度「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会」定期総会が開催され、比留間英人会長（教育庁次長）遠藤勝裕副会長（経済同友会「学校と企業・経営者の交流活動推進委員会」委員長）をはじめ、多くの企業、NPO関係者、学校教育コーディネーターなど、約50名の方が参加しました。平成17年度の活動報告では、明治乳業（株）（以下、明治乳業）から、この協議会と連携することにより、区内小学校で実施することができた「食育」の授業についてのレポートをはじめとする、数多くの成果が発表されました。

また平成18年度については、企業、NPO、大学等の連携による新しい取組や学校関係者との連携など、今年度の活動方針が説明されるとともに、重点的取組として、都立高校で次年度から始まる「奉仕」必修化に向けての取組、及び家庭教育支援についての取組が紹介されました。



今回の総会で発表された、今年度の重点的取組についての事例を紹介します

1 都立高校生向け情報誌『体験活動のススメ』づくりについて

▶▶▶ NPOカタリバの取組紹介

「NPOカタリバ」は、高校生が将来に向けての主体性をもつきっかけを作ることを目指し活動を続けている大学生を主体とする団体です。高校生が自分よりも少しだけ先輩である、学生や若手社会人と出会い話し合う中で、自分の進路について主体的に考え、新たな一歩を踏み出すことを応援する「カタリ場」というプログラムを展開しています。



協議会で発表する「NPOカタリバ」代表の中澤久美さん

「NPOカタリバ」のホームページアドレス
<http://www.katariba.net/>

カタリバでは、今年度、協議会と連携しながら、現在あるボランティア向けの2つのフリーペーパーをもとにして、高校生が「奉仕体験活動」に向かう前の動機付けとして、活用できるような情報誌を作成し、高校生の主体性を喚起していきます。

カタリバという団体は、常にボランティアキャストが、高校を卒業した新鮮な人たちであることが売りであると思っています。そこで、その若い人たちの感覚を生かし、高校生が手にとって、家にもって帰って、大切にしたいくなるような情報誌をつくっていただろうと思っています。

カタリバ代表 中澤さんの話

2 地域子育て支援ネットワークづくりについて ▶▶▶ 八王子市子ども家庭支援センターの取組紹介

「八王子市子ども家庭支援センター」は、「安心して子育てできるまち」を目指し、すべての子どもと子育て家庭支援のため、総合相談など、子どもの虐待防止や予防に取り組んでいます。そのため、八王子市域を5ブロックに分け、地域の核として地域子ども家庭支援センター（5ヶ所）を設置し、より地域に密着した有効な支援・サービスを行っています。

「命の大切さを感じ取る授業」

支援センターの業務を通し、小・中・高校生が乳幼児と触れ合いを持つことで、大人になり、親になったときに、多少の不安はあっても子どもを大切に感じ、育てていくことができるよう、命の大切さや子育てについて考えるための機会を提供したいと計画していたところ、子育てサークルから、赤ちゃんとの交流を通して高校生に「命の大切さ」を感じ取ってほしいという要望があり、片倉高校との連携による「赤ちゃん抱っこ授業」が実現しました。授業では、赤ちゃんと高校生がペアになり、1時間ほど赤ちゃんを抱っこしながら、ゲームや意見交換をし、交流を深めていきました。

この体験を通して、赤ちゃんのお母さんたちから信頼され、その上で、命の大切さを実感した高校生の乳幼児へのまなざしや対応が、積極的かつ思いやりのある対応へと変わっていきました。

子ども家庭支援センターは、多世代交流の観点からも、この取り組みの必要性を感じ、今後、地域ネットワークを利用し、定着させ、より多くの高校生が体験することで、妊娠・出産・育児の楽しさと大変さを理解し、人を人として大切に感じることができるよう、命の大切さや子育てについて考えるための機会を継続的に提供していきたいと考えています。



協議会で発表する、戸田輝子さん（左）と、加藤陽子さん

八王子市子ども家庭支援センター 戸田さんの話

詳しい内容を知りたい方は、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会ホームページ」を御覧ください。
<http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/schooling.html>